

道徳（同和問題）学習指導案

平成3年 10月21日（月）第5校時

3年D組 男子19名 女子18名 計37名

指導者 後藤田 寿子

1 主題 人間としての生き方（真実を見抜く）

資料 「人の値うち」江口いと

2 主題設定の理由

大きな期待と希望を持って集まった37名の仲間たちと共に最終学年をスタートして早、半年以上を経過した。一見、平穏そうに過ごしている生徒たちではあるがさまざまな形の悩みや苦しみを背負って生きている。また心の奥底では進路についての不安や焦りが渦巻いており心は大きく動搖している。それだけに、こうした生徒たちの悩みや苦しみを自分のものとして共に感じ共に生きていく教師であり続けたい。そして誰一人として悲しくつらい思いをすることのない学級を目指して共に支え合い励ましあいながら歩んで行こうと願いながら、学級生活の諸活動を通し、温かい仲間づくりに取り組んでいる。

1学期「自分以下を求める心」の学習を通して差別の本質と自らの差別性に気付き、人として大切な生き方、人間らしい生き方とは何かについて学んだ。また「娘の遺してくれたもの」を通して厳しい部落差別に負ることなく真実を求めて生きた青年と愛子さんの生き方に心を打たれた。そして、相互の信頼関係が同和問題の解決のためにいかに大切であるかを認識した。「今、光っていい。」という愛子さんの想いの中に水平社宣言の「熱と光」を感じた。さらに「同和教育への希い」を通して厳しい部落差別の中を生き抜いてきた丸岡さんの苦悩に出会い、胸がはりさけそうな痛みを覚えた。差別に負ることなく自ら立ち向かって生きた丸岡さんの勇氣ある、すばらしい生き方を学ぶことにより人間としての生き方を追求してきた。

そうした学習を通して生徒たちの心の中に差別解消への熱い想いが餘々にではあるが、生まれつたり木音でぶつかり合う姿がみられるようになった。そんな中、クラスのA子が同和問題意見発表会で自分は地区出身だと宣言した。途中、過去の悲しかった出来事や辛かった想いがつのってきて涙で途切れながらも切々と自分の想いを訴えた。その彼女が代表として郡大会へ出場。他校の生徒たちの前でも胸をはって地区出身を名乗り、仲間と連帯して差別と闘いながら一生懸命、生きていくという熱い決意を心から訴えた。私は彼女の生き方の中に丸岡さん自身が宿っているかのように思えた。とても強く逞しく思えたA子ではあったが、彼女は「同和教育への希い」を学習する前には「私は自分が部落の生まれだということをみんなの前で言うのが怖い。それは何よりも恐ろしい。みんなの視線を感じるからだ。」と日記に書いてきた。その彼女が「同和教育への希い」の学習を通して丸岡さんの生き方に共感し「今まで私は差別から逃げ出すことばかり考えていた。逃げるのではなく立ち向かっていくという強い勇気がわいてきた。丸岡さんのように強く生きていきたい。」との感想を書いてきた。彼女の心の痛み、解放への叫びに出会い、私は胸がしめつけられる想いがした。差別の重みを背負いながらも、ひたむきに一生懸命、生きているA子をこれほどまでに悲しませている差別を絶対に許してはいけないと心から思う。こんなA子を見てB子は「みんな

を信頼してその思い言葉を言ったA子は本当に素晴らしいと思う。その強い心と勇気を見習いたい。A子に寄りそって共に部落差別と闘っていきたい。」と綴っている。こんな友がいる反面、他人事として考え「自分には関係ない。」というとらえ方の生徒もいるなど同和問題を自分の問題として解決していくとする意欲や態度に消極的な所が見受けられる。また身の周りの不合理や矛盾に気付いても大勢の流れに左右されやすく自ら正そうとする態度が十分に育っていない。そこで本資料を通して何が真実であるかを見抜き、まちがいを正そうとする意欲や態度を身につけさせたい。

本資料「人の値うち」の中で作者は私たちの生活の中にある不合理、矛盾に目をむけ、そのことが人権侵害につながっているということ、さらに人権侵害の最大の問題として部落差別が厳存しているという事実を鋭く指摘している。不合理、偏見、矛盾が、差別を産み差別を温存させてきた大きな要因でもある。今、私たちは差別に対する鋭い人権感覚を持ち、人が人間として尊ばれる差別のない社会を実現するために、何が真実であるかをはっきりとみきわめる勇気と確かな眼を養い、差別解消に積極的に取り組まなければならないことを強く訴えている。丸岡さんのメッセージの中に「生きるのがへたであってもかまわない。真実をしかとみする勇気を持つのだ。本物をみわかる確かな眼を養うのだ。」というのがあったがまさにその言葉と江口さんの思いが重なり合う。クラスの生徒たちにもそんな勇気と確かな眼を身につけてほしいと切に思う。そしてこの社会に生きている一員として私たち一人一人が同和問題を自分の問題としてとらえ共に解決していくことが私たちの課題であり全ての人間の幸福につながることだということを理解させたい。さらに人間だれもが幸福に生きていける社会の早期実現を心から願う作者の熱い思いを受け難ぎ私たちは人間としてどう生きていくべきかを追求させたいと願い本主題を設定した。

3 ねらい

- ・お互いの人格を尊重し合い真実を見抜き、正しく生きることの大切さを学ぼせる。
- ◎不合理、偏見、矛盾が差別を生み、人権侵害につながっていることを理解させ、人権尊重の立場に立って不正や差別を憎み積極的に差別に立ち向かう意欲や態度を養う。

4 指導計画

- (1) 常時指導 「あゆみ」や「1分間スピーチ」で自分を語り自分をみつめる機会を持たせている。
- (2) 関連的指導 道徳 「人の値うち」・・・・1時間(木時)
- (3) 核心的指導 第一次 「水平社宣言賛歌」・・・・2時間
第二次 「水平社宣言」・・・・4時間
人間の尊厳を守り抜くために命がけで闘った人々の誇りうる生き方に共感させ、同和問題を自分の問題として積極的に差別解消に立ち上がる意欲と実践力を育てる。
- (4) 発展としての関連指導(学活) 「人間としての生き方に学ぶ」
人間としての正しい生き方とはどんな生き方かを話し合い、さらに考えを深める。
- (5) 常時指導(発展) なんでも語り合い、支え合う仲間意識を高める。

5 本時の目標

1 目標・見せかけに惑わされることなく、眞実を見抜く勇気と態度を養う。

①心ない言動が相手の人権を侵害する差別につながることを理解させ、人間の見かたや考え方を科学的に追求し自らの生き方を求めさせる。

2 展開

学習活動	主な発問と期待される生徒の反応	指導上の留意点
資料を読む		
1. この詩を読んでの感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○この詩を読んでどう思ったか。 ・差別解消を願う熱い思いが伝わってくる ・身のまわりにはいろいろな差別事象がある。 ・人間は弱い生き物だと思う。 ・何気ない言動が差別につながる。 ・外見だけで人を判断してはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの生徒に発表させる。
2. 問題点について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○この詩の中で問題になっていることは何か。そのことについて自分はどう思うか。 ・なぜ外見だけで人を判断しようとするのか。そんな人間が許せない。 ・着物、肩書き、学歴、生まれた所によって人の値うちが決まるなんておかしい。 ・生まれた所で差別されるなんて許せない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点をあげさせ人間の見方や考え方を科学的に追求させる。
3. 身のまわりの差別事象について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○私たちの身のまわりにこのような差別事象はないだろうか。あれば具体的に例をあげ、それについて自分はどう思うか。 ・肩書き、学歴で人を判断することがよくある。 ・部落差別、結婚差別という厳しい差別の現実が今なお存在している。 ・いろんな差別があるが一切の差別を許してはいけないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・差別の現実を知り強い憤りを持たせると共に一切の差別を許さない態度を育てたい。
4. 「人の値うち」について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○「人の値うち」って一体何だろうか。 ・外見できまるものではない。心の 	<ul style="list-style-type: none"> ・この詩に限らず今までに学習した資料からも考えさせる。

	<p>美しさだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人に対する思いやりの心。 ・人それぞれにその人の値うちがあるものだから一概にはいえない。 ・温かい思いやりの心、優しさ。 	
5. 作者が私たちに訴えていることについて考える。	<p>○ この詩を通して、作者は私たちに何を訴え、何を願っているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの不合理、偏見、矛盾が差別につながっている。 ・あやまちに早く気付き、誰もが幸せに生きていける世の中を早く実現させたいと願っている。 ・何が真実かを見抜き、人間として正しい生き方をしてほしい。 ・見せかけに惑わされることなく真実を見抜いて生きてほしい。 ・一切の差別をも許してはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者の願いを深く考えさせる。 ・人間はお互いの人権を尊重しあい真実を見抜き正しく生きることの大切さをつかませる。 ・差別解消に取り組むことこそ全ての人が幸福になれる道であることを理解させる。
6. 今後、自分は人間としてどう生きるかについて考える。	<p>○ この学習を通して私たちは何を学んだか。そしてこれから自分は同和問題とかかわってどう生きていこうと思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真実を見抜き、正しい生き方をしていきたい。 ・部落差別から逃げないで正面から立ち向かっていきたい。 ・一人になっても自分が正しいと信じる道を歩んでいきたい。 ・仲間の悲しみと共に背負い共に部落差別と闘って生きていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって同和問題の学習とは何であるかを考えさせる。 ・同和問題とかかわって今後自分はどう生きるかを語らせる。

人の値うち 江口いと

何時かもんへはいて
バスに乗つたら
隣座席の人は
おばはんと呼んだ
戰時中よくはいたこの活動的なものを
どうやらこの人は年寄りの
着物と思つてゐるらしい

よそ行きの着物に羽織を着て
汽車に乗つたら
人は私を奥さんと呼んだ
どうやら人の値うちは
どう物で決まるらしい

講演がある
何々大学の先生だと言えは
内容が悪くとも
人びとは耳をすませて聽か
良かつたと言ふ
どうやら人の値うちは
肩書きで決まるらしい
立派な家の娘さんが
部落にお嫁に来る
でも生まれた子どもはやつぱり
部落だと言われる
どうやら人の値うちは
生まれた所によつて決まるらしい
名も無い人の講演には
人びとはそわそわとして帰りを急ぐ
どうやら人の値うちは
学歴で決まるらしい
(「荆を越えて」から)